

みはま

No

37

春号

議会 だより



三方五湖春まつり

レインボーラインの山頂公園で、春の訪れを告げる毎年恒例の三方五湖春まつりが行われ、観光客の千客万来と安全を祈願しました。

まちの話題	2～3
2月臨時会・3月定例会	4
副議長就任あいさつ・議会構成表	5
常任委員会の動き・現地視察	6～7
一般質問	8～11
全員協議会	12

地域づくり拠点化整備特別委員会	13
組合議会の動き	13～14
関原協視察研修	15
知っ得議会シリーズ⑫	15
三方五湖春まつり・青池学園入学式	16
編集後記	16

福井県美浜町議会

はあとぴあ(美浜町保健福祉センター)大規模改修

まちの話題

町内の様々な話題をお知らせします。

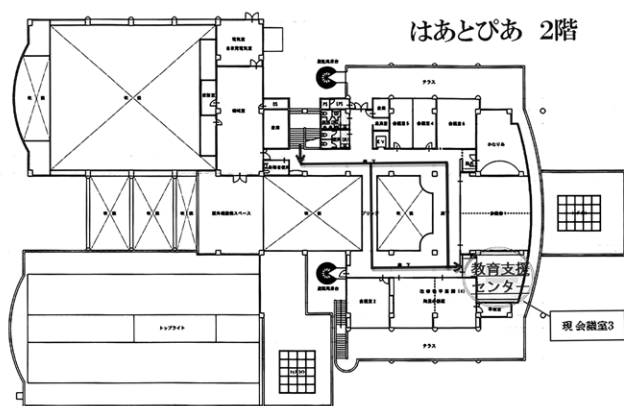
I 大規模改修事業基金積立 2億3,136万円

老朽化により、今年度、「はあとぴあ」を大規模改修することになった。その基金積立として、2億3,136万円を平成31年度3月補正で計上した。床の貼り替えや風呂の改修も行われるため、お風呂場は8月から翌年3月までの約8ヶ月間使用できなくなる。

II 子育て支援センター はあとぴあ 1階に移転

現在の子育て支援センター(旧西保育園)を、「はあとぴあ」1階南側に移転することが決定した。これは、旧西保育園の立地が急傾斜地域にあり、安全上危険と判断したため、今の南側入口から直接入れるようにし、中庭を屋外遊戯施設として改造する。なお、2020年度完成予定の地域づくり拠点化施設(道の駅)には、子育て交流施設を併設する予定である。

III 教育支援センター はあとぴあ 2階到新設 (適応指導教室)



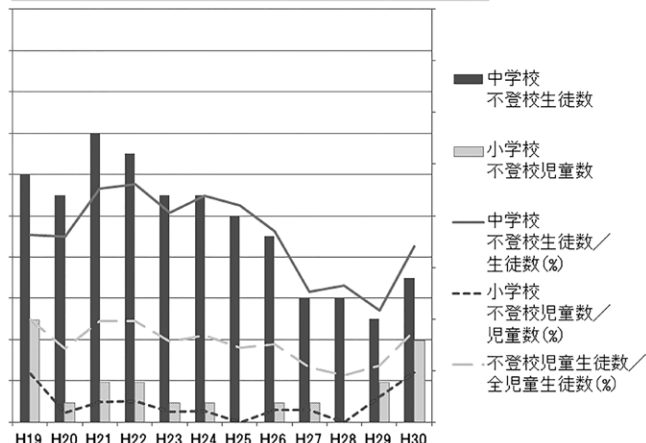
不登校児童生徒たちの学校生活を支援するため、当該児童生徒の個々の状況に応じて、心の安定・基礎学力の補充・基本生活習慣の改善等のための相談等を行い、教育機会の確保や社会的自立への支援を目的として設置するもので、平成31年4月1日から開所している。開室日時は月曜日から金曜日の9時30分から15時までの予定である。場所は「はあとぴあ」2階の現図書館を改造して利用する。センター長には、元美浜中学校校長の河合政志氏が就任することになった。

(竹仲記)



美浜町小中学校不登校児童生徒数 年度別推移

(H30.12月末現在)



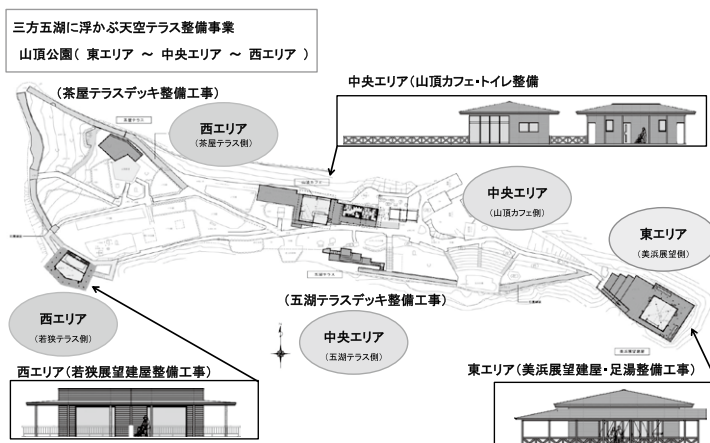
レインボーライン展望 三方五湖に浮かぶ天空テラス

建設決定 2019年完成予定 総事業費 3億1,140万円



レインボーライン山頂公園

るもので、レインボーライン展望を湖に浮かぶテラスとイメージし、天空テラスと名づけて展開していくこうとする考えからスタートしている。山頂を3つのエリアに分け、東エリアには展望建屋と足湯ができる施設を設ける。中央エリアには山頂カフェを新設し、回遊性を高める空間を整備する。西エリアは若狭屋展望建屋と茶屋テラスを新設する。また、第1駐車場の山麓レストランの増築を行い、観光消費額の増加や滞在時間延長につなげる。これらの施策は、レインボーラインへの入込客数が年々激減しており、これを何とか回復したいとの考えから実施するものである。(竹仲記)



健康楽膳拠点施設(久々子湖畔 県園芸研究センター内)

『こるぱ』7月グランドオープン



健康楽膳拠点施設こるぱ

3点以上加える。2つ目は、「食と健康」や「食と運動」をテーマとしたセミナーを定期開催する。3つ目は、町やタニタが提供する食による健康づくりなどの情報を定期的に発信する。その経費として、タニタへ約437万円、指定管理者へ指定管理料等約1,884万円を、平成31年度当初予算で計上した。指定管理者には現在2社の応募があり、4月中には決定の運びとなっている。(竹仲記)

昨年、国体に併せ約1ヶ月間のプレオープンを行い一定の評価を得た。いよいよ、今年7月のグランドオープンに向けて準備を進めている。これまで、運営方針などについて多くの協議がなされた。1つ目は、ヘルスメーカーのタニタと契約したタニタカフェのレシピによるメニューを



2月臨時会(2月4日～8日)

平成31年度「骨格予算」決まる

平成31年第1回美浜町議会臨時会が、2月4日から8日(5日間)の日程で行われました。今回は、任期満了に伴う町長選挙を3月に控えていた為、平成31年度の予算は骨格予算として上程され可決承認されました。

総額 112億

4539万円を計上

(町民一人当たり117万円)

山口町長の5期20年に亘る最後の議会となる2月臨時会となりました。議案13件を審議し、原案通り可決されました。31年度の一般会計68億3546万円、特別会計40億7309万円、企業会計(上水道事業)3億3684万円が計上され、昨年行われた福井国体等の経費、

及び農林水産土木事業の減額に伴い、一般会計は前年比9・3%の減となり、逆に特別会計は公共下水道工事等で4・4%の増となりました。

町民一人当たりに換算すると、117万円になります。

産業厚生常任委員会に付託された、美浜町健康楽膳拠点施設「こるぱ」に関する条例の変更に ついては、慎重審議を重ね議会の要望・意見等も反映されました。

(辻井記)

3月定例会(3月13日～25日)

新体制で定例会を開催

定例会は13日から25日までの13日間の会期で開催されました。最初に副議長の退任に伴う選挙や、常任委員会の構成替えや正・副委員長を選出もあり、新しい議会構成がスタートしました。(5ページに詳細を記載)

2月19日に当選した戸嶋新町長にとって初の議会となり、提案理由の説明では、今後の町づくり方針についても述べられました。追加議案では、新しい課の組織改編に伴う条例の制定、さらに固定資産評価審査委員会委員の再任と人権擁護委員の新任・再任が承認されました。

一般会計の3月補正予算額は8億8293万円となり、主なものとして、総務費では、まちづくり基金積立に1億5000万円、民生費では、保健福祉セン

ター「はあとびあ」の大規模改修事業の基金積立に2億3136万円。農林水産業費では、丹生・菅浜地区農業用施設改修事業と、丹生地区の水産振興冷凍施設の基金積立として合計1億200万円。土木費では、町道久々子・金山線及び佐柿・郷市線道路改良工事の基金として6000万円を積立

てます。産業厚生常任委員会では、これらの改修工事や施設整備事業に伴う積立基金条例の審議を行い、全

て可決承認されました。(辻井記)

副議長就任あいさつ

新しい時代を皆さまと共に



副議長 辻井 雅之

この度、3月の定例会におきまして、副議長に就任させて頂きました。

元号がこの5月1日から「令和」となり、新しい時代が始まります。平成の「平」と令和の「和」で「平和」となります。日本から世界の平和を発信する時代になればと願います。町政も戸嶋新町長のもと、新しい「美^{うま}し美浜」づくりのスタートが切られました。議会も常任委員会の構成が変わり、町政に係る多くの課題と向き合うこととなります。

町づくりは、住民自治の原則の中で、議会と行政の討議で、一番ベストな答を出し確実に実行する事です。議会も皆さまと共に新しい時代のスタートを喜び、明るい未来に繋げるよう頑張りますので、皆さま方の温かいご指導とご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

美浜町議会構成表

議 長	崎元 良栄	(就任) 平成 30 年 3 月 19 日
副議長	辻井 雅之	(就任) 平成 31 年 3 月 13 日

(平成 31 年 3 月 25 日現在)

議席番号	氏 名	住所	常任委員会			議会運営委員会	特別委員会			組合議会					福井県後期高齢者医療広域連合
			総務文教	産業厚生	予算決算		原子力発電所	議会広報	地域整備	環境衛生組合	美浜・三方	敦賀美方消防組合	嶺南広域行政組合	公立小浜病院組合	
			7人	7人	13人		7人	7人	7人	6人	4人	2人	3人	1人	
1	仲 嶋 正 一	河原市	●		●		●				●				
2	高 橋 修	麻 生		○	●	●		●	●	●					
3	寺 田 順 一	興道寺		●	●			○		●					
4	梅 津 隆 久	菅 浜		◎	●	○	●		●		●				
5	河 本 猛	久々子	○		●	●	●		●		●				
6	辻 井 雅 之	佐 田	●		◎			◎	●				●	◎	
7	川 畑 忠 之	南 市	◎		○	◎	○				◎				
8	松 下 照 幸	新 庄		●	●		●							●	
9	崎 元 良 栄	南 市		●				●		◎			◎		●
10	山 口 和 治	郷 市	●		●			●	○	●					
11	藤 本 悟	新 庄	●		●	●	◎			●					
12	兵 庫 賢 一	河原市		●	●	●		●	●		●				
13	北 村 晋	早 瀬		●	●		●			●					
14	竹 仲 良 廣	南 市	●		●			●	◎					●	

※常任委員会、議会運営委員会及び特別委員会
 ※敦賀美方消防組合議会及び嶺南広域行政組合
 ※美浜・三方環境衛生組合
 ※公立小浜病院組合

◎・・・委員長 ○・・・副委員長 ●・・・委員
 ◎・・・代表者 ●・・・委員
 ◎・・・同組合議長 ●・・・委員
 ◎・・・常任委員 ●・・・委員

◆第 17 期議員任期：平成 30 年 3 月 15 日～平成 34 年 3 月 14 日
 ◆常任委員会委員 及び 議会運営委員会委員 選任……平成 31 年 3 月 13 日

常任委員会の動き

予算決算
常任委員会

付託案件6件

委員会に付託された議案は6件で、一般会計予算では事業基金積立が主な予算となり、細部に亘る減額予算が多くを占めました。

◎平成30年度美浜町一般会計補正予算(第5号)

〈総務費・民生費〉

問 路線バス運行維持事業の869万円は、福鉄バス会社

への負担金だが、毎年この時期に事業が確定して支払うのか。

答 毎年3月の補正予算に計上し支払っている。今年は関西電力(株)が社員にフレックスタイム制を導入したこともあり、前年度より約110万円負担金が増えた。

問 美し美浜インバウンド雇用創出プロジェクト事業は減額になっているが、活動しているのか。

答 インバウンドを受け入れるために、外国語でのタブロイド紙の制作や住民を交えた会議等を行っている。

問 子ども医療費助成事業について、中学校までの医療費助成で385万円の減額があるが、この分で高校卒業まで拡大できるのではないか。

答 高校生までの助成拡大については、今後、子育て支援の充実を進めていく中で検討していきたい。

〈商工費〉

問 三方五湖に浮かぶ天空テラス整備事業1億5570万円は、最終段階の事業か。

答 レインボーラインの山頂整備事業で、若狭町も同額の助成を行い総額約3億円になる工事は、今回最終段階だと考えている。この事業により、会社の収益を上げて力を付け、次の段階に進んでいく。

〈土木費〉

問 町道久々子・金山線道路改良事業基金積立、及び佐柿・郷市線道路改良事業基金積立金とは。

答 久々子・金山線は、昨年完成した西小学校前の町道において更に延長改修をする工事、今後2年で実施する。また、佐柿・郷市線の基金積立は、耳川橋の改修工事に伴う景観整備工事、今回基金として積立てるものである。

〈教育費〉

問 眠育・不登校対策事業の効果は出ているのか。

答 眠育・睡眠調査を実施し不登校を防いでいく点と、不登校対策で支援員を入れてのケアをしていく2つの点がある。調査に基づく、以前に比べ改善されており成果は出ているが、不登校については増加傾向にあるため、危機感を感じている。

(辻井記)



英語・中国語にも対応したタブロイド紙「すみずみ美浜」

国民健康保険・水道施行条例の一部改正2議案、保健福祉センター大規模改修事業・水産振興施設整備事業・町道久々子・金山線他道路事業3議案、丹生・菅浜地区農業用施設改修事業基金関係2議案を審議し全て承認されました。

問 国保条例の改正追加条文に「特別な理由がある被保険者」とあるが、特別な理由とは。

答 世帯主が対象で、自然災害によつて亡くなつたり障害を受けたたり財産に重大な被害を被つた場合や、干ばつ・冷害等で農作物不作等、所得が著しく減少した場合、また、事業の休廃止・失業等で減収等の事象が発生した場合に対する処遇である。

問 保健福祉センターはあとび大規模改修の改修内容と期間は。

答 約八ヶ月の工期を要するが、平成31年度は浴室が主であり、子育て支援センターの移転工事も含

まれている。工事期間中は休館となる部屋も発生するので、なびあすや公民館の利用をお願いしたい。また、32年度には屋外防水工事を計画している。

問 水産振興施設整備事業【丹生漁協】とはどのような事業か。また、工期は何時ごろになるのか。



老朽化が進む冷凍・冷蔵設備（丹生漁協）

答 冷凍・冷蔵設備の改修である。耐用年数は50年だが44年経過し老朽化が激しいことから、国と調整出来次第、31年度に現有設備と同等の機能を持つ設備に改修する。

問 町道久々子・金山線他道路改修の中で、耳川橋の完成と全体工程はどうなっているのか。

答 30年度末完成で進めていたが、国からの予算が付かず遅れている。しかし、4月から再開できると考えている。工事期間に制約があるが、31年度中の完成を目標としている。（梅津記）

現地視察

関西電力(株)美浜発電所

去る3月19日現地視察を行いました。行先は関西電力(株)美浜発電所で、1・2号機の廃止措置工事と、3号機の再稼働に向けた安全性向上対策工事の状況を確認するためです。現議会メンバーでの同所への視察は初めてですが、議会としては平成29年9月以来の事です。周囲に

は地下の岩盤まで掘り下げた上で6mの防潮堤が建設され、構内には工事関係企業の大きなオフィスビルの様な仮設の事務所が立ち並び、様変わりした光景と工事の規模の大きさに驚きました。廃炉の現場では、既に撤去されて出来た空きスペースと保温材が剥されむき出しになった配管が目立ち、廃炉作業がかなり進んでいる実態を確認致しました。（兵庫記）



美浜原子力PRセンターでの説明



河本 猛 議員

**美浜町は障害者雇用率ゼロ%
リーダーシップを発揮する
べきだ！
障害者雇用について**

問 昨年12月25日に公表された福井労働局の「平成30年公的機関等における障害者雇用状況の集計結果」によれば、美浜町の平成30年6月1日時点の障害者雇用率は、ゼロ%だったと報道された。

県内の市町の中で、障害者雇用率がゼロ%というのは美浜町だけである。町は障害者雇用率ゼロ%という状況をどのように打開するのか、対策について具体的な方向性を検討しているのか。

町長 国と町との解釈の齟齬があり、数値を修正することについて、まことに遺憾である。

今後は法定雇用率の早期達成に向け、これまで以上にハローワークや関係機関と連携して障害者の方が働きやすい環境づくりを目指す。さらには、本庁職員として就労を望む方の雇用、職場での理解促進、さらにはサポート体制の強化に向け、具体的な対策を検討していきたい。

問 本来であれば、平成31年4月採用の募集から、早急に対策を行うべきである。期限を切つて結果を出すと明言して、リーダーシップを発揮するべきだ。

町長 就労環境の整備等もしっかりと整理した上で取り組んでいきたい。

意見 私たち議会議員がしっかりとチェック機能を果たしてこそ、信頼性、公共性の高い行政運営につながる。

昨年から続く障害者雇用の質問が、美浜町の障害者雇用率の達成と住民福祉の一步前進につながることを期待している。

**収支目標を明確に示せ！
健康楽膳拠点施設「こるば」について**

問 営利を目的としない社会的に必要な福祉施設とは違い、商業施設である健康楽膳拠点施設「こるば」には、利益を上げ、町財源への還元が求められている。

「こるば」の運営費1884万3千円を使って、どの程度の町財源への収入を見込んでいるのか、収支目標を明確に示せ。

町長 商業施設という議論もあるが、私としては、公益施設だと考えている。その最も優先すべき目的は、健康づくり、さらには直販の機能を生かした農林水産業、さらには三方五湖ゾーンの一角で集客機能を求めることで観光産業の振興が期待できる。

施設を効率的に運用するための管理運営計画について、指定管理者としっかり協議をした上で進めていきたい。

意見 結局、目標値は示されませんでしたが。財源収入の見込みもなく、これだけの支出を続けるつ

もりか。議会が承認したとしても住民は納得しません。目標をしっかりと掲げて、目標達成のためにどのような計画を立案するのか、議会や住民に丁寧な説明や意見交換の場を持ち住民の厳しい意見も聞いてもらいたい。

**30キロ圏の自治体が「拒否権」を持つてこそ
原発の諸課題について**

問 茨城方式では、「事前了解権」や「同意権」を、30キロ圏の自治体に拡大した。30キロ圏の自治体が「拒否権」を持ち、合議制の中で合意を得てこそ民主的な判断、原発の民主化が前進する。

老朽原発美浜3号機の判断についても、「茨城方式」の導入が必要不可欠だ。考えを伺う。

町長 茨城には茨城の事情があつてのことと理解しており、現状において同様の協定が必要であるとは考えていない。

意見 答弁を聞くと、「原発の民主化」というのは前進することはない。「原発は民主的ではない」といつておく。



高橋 修 議員

町長が訴える地域愛とは

問 少子高齢化と人口減少の危機が迫る中、町長はまちづくり方針で地域愛を強調しているが、その思いとお考えをお尋ねする。

町長 物事に対する愛情や愛着が、機動力と成果に大きく影響する。

私が訴える地域愛とは、自然・風景・伝統文化・食・地域と人等を、よくしたいと思う心であり、まちづくりの源泉と考える。

今後、里育・集落プラン・伝統文化を介した取り組みから始めたい。

意見 まちづくりは人づくりである。地域愛の原点は、その地域での生きがい・やりがい・きずな等であり、それらを指針として多くの住民が参画できる行政が基本と思う。住民一人一人の経験・知見はまちの財産であり、それを引き出し最大限活かす、全員参加型の行政を私は望む。加えて、常に学び、その学びを糧に挑戦する、

真摯で闊達な風土づくりが不可欠と思う。

町長のまちづくり施策は

問 町長は、まちづくり推進のため、住民と行政が地域課題を共有し、共同で取り組む体制の強化を掲げ、「住民による集落元気プラン」や「学生や若者のまちづくりシステムの構築」を提唱しているが、もう少し説明をお願いしたい。

町長 住民や行政職員に、地域愛がしっかりと醸成されれば、大きな推進力になる。地域愛をベースに、集落の課題に住民が能動的に取り組む「集落元気プラン」、若者や大学等の若い柔軟な発想を取り込む「まちづくりシステムの構築」等から始めたい。

意見 それらがうまく立ち上がれば、多くの課題が浮かび上がる。その時の行政の対応が成否を決めるので、鋭意取り組んで欲しい。

私が考えるキーワードを二つ申し上げたい。一つは「現場主義の徹底」である。謙虚に町内外の現場を観て意見を聞き、現場を軸に、さらに強い現場をつくるという考え方と手法の徹底である。

もう一つは「スピード」である。

早く対応すると共に、PDCAを回し、目標と施策とその進捗が、誰にでも見えるようにすることである。そのことが、参画意識と連帯感を育み、推進力になると思う。

新幹線敦賀開業をどう活かすか

問 23年の北陸新幹線の敦賀開業等を受け、福井は百年に一度のチャンスと言われているが、交流人口増大や人口減少対策に結びつけたいが、美浜はどう対応するのか。

町長 周辺の県・市町も同様であるが、敦賀開業は大きなチャンスと考えている。三方五湖・新庄山里・敦賀半島西海岸の3ゾーンの魅力アップと活用、美浜の食の売り出し等、近隣の市町とも連携し、お客様が町内を周遊・滞在し、おいしい物を食べていただける、滞在型観光を構築したいと思う。

企業誘致や、福井・金沢からの通勤等、新幹線を活用して人を呼び込むことも考えたい。

商工観光課長 観光については、レインボーラインの整備、三方五湖遊覧船の再開、サイクリングコースの整備、モミじんパーク・水晶浜・国吉城、及び現在進めている道の駅等を活用し、周遊する流れをつくりたい。

二次交通等については、JR小浜線、広域的な周遊バス、レンタカーや観光タクシー、レンタサイクル等の整備・充実を図りたい。インバウンドも重要であり、大阪観光局等との協議を進めている。

最後に、これらの実行体制の確立が本場に重要であり、国・県・各市町等、広域的な連携の元、町民及び商業関係・農林漁業関係等の団体と一体となつて、着実に進めていく必要があると思っている。

意見 敦賀開業まで残すところ4年であるが、どういうコンセプトで美浜を売り出すのかも見えない。どんな準備を、誰がどうやるのかというロードマップも見えない。早く見える形で準備体制を整え、PDCAを回し始めないと、チャンスが逃げてしまう恐れもある。

変わらなければ進歩はない

意見 時代は常に変化しており、現状維持は概ね退歩である。変わらなければ進歩はあり得ない。平成が終わり、新しい時代を迎えるタイミングであり、新町長には、変わる、変えるという勇氣を持って、果敢に立ち向かい、結果を出していただきたい。



竹仲 良廣 議員

中間貯蔵施設の県外をどう思う

関電は県外立地を、その推移を見守る

問

選挙公約で「原子力と『共生』するまちづくりを継続する」と言われていたが、「共生」の概念を伺う。

町長

安全安心の確保、原子力発電に対する理解の醸成、地域の活性化。このようなことを共生の概念ととらえている。

問

「共生」を辞書で調べると、ともに利益を与えあう関係をいう。片方が一方的に他方を利用し、利用される側が害をこうむる関係は「寄生」という。美浜町と関西電力との関係は「寄生」であってはならないと思う。共生という考えから、関西電力が中間貯蔵施設候補地探しに苦慮している。美浜発電所敷地内誘致の考えはないか。

町長

事業者は県外設置を前提に模索中である。安全に保管するという意味では、敷地内乾式貯蔵は一つの選択肢ではあるが、今は県外設置の推移を見守る。

水道事業の運営権を民間に売却する考えは

町が直営で責任を持って管理運営する

問

公約の一つに地域愛を育むとあるが、それにはライフラインの水を守ることも大変重要と考える。これをどのように守るか。

町長

水道は重要なライフラインと考えており、このため、新美浜町水道ビジョンに基づき上水道統合整備事業、水道施設の老朽化や自然災害等に対処するための更新整備などを計画的に実施している。

問

昨年12月6日に水道法の改正が可決され、今後は長期間水道事業を民間に売却することが可能となった。美浜町の水道事業は今後どうなるのか。

町長

飲料水を安全に供給することは重要な業務と考える。最良の水道サービスを実現するためには、町が直営で管理運営していくことが望ましいと考えている。

2024年から森林環境税導入を決定その額は

配分額は当面300万円その後200万円加算

問

ライフラインの水を守るには森林を守ることが重要。国は2018年に森林環境税導入を決定し、これが2024年から課税されることが閣議決定した。美浜町にはどれくらいの金額が

納入され、森林はどの程度改善が見込めるのか。

農林水産課長

美浜町では、年間300万円が3年間、その後200万円が段階的に加算され、2033年度には1100万円になる。現時点で森林がどの程度改善されるかはわからない。

問

我が国の森林の私有林は全体の6割を占め、そのうち90%が10ヘクタール未満の個人経営体である。美浜町の個人経営体の比率はどの程度か。

農林水産課長

約90%が民有林である。

問

大半が個人所有の森林のため、高齢少子化による世代継承ができなく荒廃している。維持管理ができなく売却を考える地権者も増加傾向にあると思う。そこで、森林を売買する特に何か制約があるのか。

農林水産課長

土地に係る所有権移転には、事前に県知事への届出が必要である。

問

森林を手放したとき、次の地権者が誰になるかによって、水を守る、自然を守る観点から非常に重要であり、町が適切に管理することを考えなければならぬと思う。売買するとき初めに町に届出を義務付け、町が優先的に購入することができる条例を作ることができないか。

町長

昨年5月に森林経営管理法が成立し、今年4月から森林管理制度がスタートする。これは、所有者が適切に森林管理できない場合、市町村がその管理を行う制度で、これにより適切な森林管理を行う考えである。

不審船漂着の増加傾向をどう考える

監視カメラを設置することの一つの方法

問

町民の命と財産を守ることも地域愛を育むことと考える。今年に入り、相次いで不審船が漂着している。簡単に何回も乗り上げられている管理体制をどう考えるか。

町長

海上では敦賀海上保安部が、陸上では敦賀警察署がそれぞれパトロールをしている。今後も継続して監視体制を強化していただくことと考える。

問

現状維持との考えだが、それでは不安である。海岸線に監視カメラを設置し、常時監視する体制を行なっているのか。町の安全は町自ら行うべきでは。海岸に限らず、防犯カメラによる犯罪検挙が効果を表している。監視カメラを設置することは一つの方法と考える。

町長

道の駅を含めた周辺施設をどうする

美浜駅前広場活用計画を策定し検討する

問

道の駅計画に対し敷地面積が足りないとか、駅周辺の活性化をどうするのか等の意見が出ている。この辺の対策改善を考えているか。

土木建築課長

今年4月以降に美浜駅前広場活用計画を策定し、JR駅前の広場周辺、公共施設等既存施設を有効に活用して、面積の確保や駅周辺の活性化を考える。



松下 照幸 議員

全国の地域経済の疲弊とその要因について

問 全国に共通する地域経済の疲弊について、大きな要因は何か。

町長 出生数の減少、若年層の流出、東京一極集中などが大きな要因。地域で稼いだお金が、地域外へ流出することもあり課題に対応している。具体的には、エネルギービジョンをしっかりと打ち立て、地域主導型で仕事を作る取り組みも始めている。このような視点で、地域でお金を回し、起業する方向で一生懸命取り組んでいきたい。

美浜1・2号機廃炉に伴う財政問題について

問 美浜1・2号機の廃炉に関し、今後の中長期財政計画について問う。

町長 1・2号機の廃炉を受け、財政的に厳しい状況を迎えている。町税、電源交付金等を踏まえながら財政運営をしている。歳出面では、今後見直しも含め、検討していきたい。

エネルギー構造転換理解促進事業の取り組みについて

問 町長(当時副町長)は「再生可能エネルギーを美浜町の重要なエンジンにしたい」と述べた。その後の具体策には、「効果を期待できない」と思える項目がいくつかある。期待できる項目としては、「地域主導型」による再生可能エネルギー利用促進がある。2つの地域が手を上げたが、その進捗状況と、反省すべきところを聞きたい。

町長 地域力や地域愛を醸成する上でも、効果的な事業ではない

か。調査結果をもとに、事業が広がる取り組みを進めていきたい。

エネルギー政策課長 上野、菅浜の2地区が手を挙げた。地域の課題を把握し、地域が主体となって課題を見つけ、再生可能エネルギーを使いながら解決していく視点で検討を進めていきたい。今は計画書をまとめている段階である。

『世界最高の安全基準』についての認識について

問 3号機は古く、再稼働の安全リスクは非常に高い。耐震規制について、審査基準はほとんど見直されていない。使用済み燃料ピットなどには耐震性がない。「世界最高の安全基準」とはとても言えない。町長の考えは？

町長 福島第一原子力発電所事故の教訓を踏まえ、IAEA、諸外国の規制基準を確認をしながら、日本も基準策定に取り組んだものと考えている。

意見 基準地震動は過小に評価され、国の安全審査については、1箇所しか地震で壊れないと想定している。そんなことはあり

得ない。「世界最高の安全基準」とは、とても言えない。福島原発事故でも、東電の責任者は誰も責任を負っていない。これは安全上の最大の欠陥である。

原発の新增設、リプレースについて

問 東芝、日立、三菱重工の3大原発メーカーの原発部門は、破綻状態にある。国内での建設は住民の反対で不可能となり、海外輸出も頓挫。メーカーは再生可能エネルギーへ軸を移しつつある。私たちの質問状に関電は「回答拒否」を続けている。美浜町で原発の新增設、リプレースを語ることには「愚かに等しい」と考える。町長の考えは？

町長 エネルギーの安定供給、経済性、環境保全、さらにパリ協定で地球温暖化対策に係る2050年温室効果ガス8割カットの観点から、安全最優先のもと、原子力発電は必要なエネルギー源であると考えている。

全員協議会

● 1月25日の全員協議会で、次の2事項について協議しました。

(1) 教育支援センター(適応指導教室)の設置について (教育政策課)

これまで、眠育や学習支援員等の配置等を行ってきたが、人口が減少する中でも、不登校児は増えており、危機感があるとの説明があり、その対策として、「社会的自立及び心理的発達への支援」を目的に、今年4月1日より、はあとびあ内に「教育支援センター」を設置したい旨の説明がありました。議員より不登校の原因は多岐にわたるので、その対応の難しさや、はあとびあ環境は適当か等の質問や意見がありましたが、提案通り了承されました。

(2) ふるさと納税の状況について(企画政策課)

平成30年4月～12月の寄附実績は、返礼品の魚貝類が好調なこと

もあり1億6300万円弱になり、昨年同時期の118%になるとの説明がありました。また年度見通しは、当初予算1億5千万円に対し1億8千万円になり、それに伴い委託料と報償費が1546万3千円の増額になる旨の説明を受けました。



● 3月20日の全員協議会で、次の事項について協議しました。

(1) 美浜町健康楽膳施設の指定管理について(企画政策課)

平成31年2月8日～3月7日の間ネットで公募した結果、2事業者より

り応募があり、3月11日に選定審議会を開催して、熊本県に本社があり、指定管理事業や人材派遣業等を手掛ける、(株)グッドスタッフを指定管理の候補者として選定した旨の説明を受けました。議員より、会社の沿革と社長の人物像、組織構造や期待される保有ノウハウ等々の説明要求が多くあり、25日の本会議への

上程は見送り、臨時議会を開いて再度説明頂き決議することになりました。

併せて、県が整備する「体験ラボ」や「展示ハウス」の完成が7月になるため、こるぱのグランドオープンも4月から7月に変更する旨の説明を受けました。
(高橋記)



教育支援センターが設置されるはあとびあ

地域づくり拠点化 整備特別委員会

地域づくり拠点化整備特別委員会を1月25日、2月22日に開催し、次のような意見が出て協議しました。事業者への募集要項（要求水準書）に、小規模生産者の育成、地場産業振興等についての要求が弱いという

意見があり、町も連携して進めることを確認し、また、商工会、観光協会等にも十分に説明し理解を得る事を要請しました。

道の駅は、当初計画の総面積が1万2000㎡でしたが、歩道にとられる部分が多くなった為、さらに西側部分を拡幅し、計画の面積を維持したことの報告がありました。

（山口記）

主要地方道が一部

（佐田～菅浜間）供用開始

3月17日、敦賀半島の西海岸



カーブの道が、ほぼ直線となり利用者にとっては快適で安全に走行できるようになりました。

これにより、万が一の災害時に、多重化による交通を確保し、迅速な初動・事故制圧等が出来るよう

側的主要地方道佐田竹波敦賀線のうち、北田口から菅浜までの2.1km（北田トンネル320m・菅浜乙見トンネル638m含）が開通し、今までの海岸線に沿った

になりました。全面開通は来年の春頃になる見込みです。

組合議会の動き

嶺南広域行政組合議会

1月28・29日に、嶺南広域行政組合議会の行政視察があり、嶺南2市4町の議員18名で丹波市立薬草・薬樹公園「グリーンツーリズム」と北条鉄道株式会社「鉄道を中心とした地域の活性化」を視察しました。

◎丹波市立薬草・薬樹公園について

昭和44年を最盛期にオウレン、サフラントウキ、セネガ等の漢方薬を中心に栽培してきましたが、平成27年以降はバラ、ハーブの増殖を図り公園化し、現在に至っています。しかし、高齢化に伴い、薬草の生産者が減少し20軒となっています。トウキ根は10tから500kgまで減少しました。

◎北条鉄道株式会社（兵庫県加西市）について

加西市の人口は約4万5000人で、1000人が外国人です。加西市から神戸・大阪へは、本鉄道で1時間程度で行ける位置にあります。鉄道の歴史は、大正2年に播州鉄道として発足後、昭和59年に赤字路線となりましたが、当時の国鉄から買収し北条鉄道を設立、第三セクター鉄道として経営しています。再生の成功に至った秘訣として、「いかに市民を上手に巻き込むかがみそ」「損得を持たず、熱意と信念を持って取り組むリーダーが必要」との提言がありました。（梅津記）



敦賀美方消防組合議会

平成31年度第1回敦賀美方消防組合議会定例会の開催について

平成31年度第1回敦賀美方消防組合議会定例会が、平成31年3月26日午前10時から開催されました。

当日の日程は、管理者の提案理由の概要説明があり、議案4件の審議を行いました。

第1号議案「平成30年度敦賀美方消防組合一般会計補正予算(第3号)」については、退職手当費の増額及び消防施設費等の事業費確定に伴う減額を行い、分担金等により収支の均衡を図るため、歳入歳出それぞれ5711千円を減額しました。

第2号議案「平成31年度敦賀美方消防組合一般会計予算」については、地方を取り巻く現状や、構成市町の厳しい財政状況を認識した上で、業務の効率化やコスト縮減に努めるなど、抜本的な見直しを行うと

ともに、限られた財源の効率化及び重点化を図ることを考え、予算総額15億7195万9千円が計上されました。

第3号議案「敦賀美方消防組合職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部改正の件」、第4号議案「敦賀美方消防組合火災予防条例の一部改正の件」の2件についても審議を行い、案件は全て全員賛成で承認され閉会しました。

また、平成31年度重点施策が次の通り決まりました。

スローガン：「災害に強い安全で

安心なまちづくり」

施策：①住宅防火対策の推進。②消防団を中核とした地域防災力の強化。③消防活動技術及び予防技術の強化。④防災ひとづくりの推進。⑤住民から信頼される人材育成及び効率的な組織運営。

(川畑記)

美浜・三方環境衛生組合議会

平成31年2月25日(月)午後3時より、平成31年第1回美浜・三方環境衛生組合議会定例会が開会されました。管理者より、議案の内容説明に先立ち、先月12月の定例会以降、全施設とも順調に運転を行っている旨説明がありました。

31年度衛生組合一般会計予算総額、歳入歳出をそれぞれ、5億8799万4千円とする提案があり、全員賛成で採択されました。

なお、衛生組合定例会に係る勉強会では、施設の概要説明(ビデオ視聴)とゴミ処理の広域化についての説明がありました。続いて現地視察に移り、一般廃棄物最終処分場、堆肥貯蔵施設、汚泥再処理センター、ストックヤード、エコクル美方、それぞれ現地での説明を受け、午後5時30分、定例会を終えました。

(寺田記)

公立小浜病院組合議会

監査委員として1年を経過しました。分らない部分が多く、ついに行くだけが精一杯の監査委員でしたが、いくつかの提案もできました。病院のエネルギーコストがかなり高かったので、関電と値下げ交渉するように具体策を提案し、実現できました。少しは病院経営に貢献できたでしょうか。前回小浜病院議会では、「院長の交代があり、病院長は「人事への不満」を述べられました。『何かあったな』と、議員の誰もが思ったことでしょう。私なりの調査では、「病院長の評価は良かった」と、「院政」の2点が共通していました。これが事実なら深刻です。組織は必ず『頭から腐る』。私の意見を述べて、病院側に「襟を正す」よう要請しました。(松下記)

関西電力原子力発電所 立地町議会連絡 協議会（関原協） 視察研修

三菱重工業(株)神戸造船所は、敷地面積66万9100㎡に従業員3360名が働く大規模工場です。原子力機器や宇宙機器の設計・製作などを行っています。

生産高比率は、パワードメイン（原子力事業部）56%、インダストリー&社会基盤ドメイン31%、航空・防衛・宇宙ドメイン12%、VC本部1%となっています。

生産高実績は2016年度の3065億円から2017年度は2813億円に減少していました。蒸気発生器の受注生産が終了し、世界的規模で供給を終えたことが主な要因です。

また、美浜3号機に導入されるデ

ジタル式中央制御盤のシミュレータを体験しました。緊急の災害対応時に活用できる意思決定支援設備も含めて訓練を繰り返し、設備機器の向上とともに人的な緊急時対応能力の向上を図っているという説明を聞きました。

（河本記）



知 っ 得 議 会 シリーズ 12

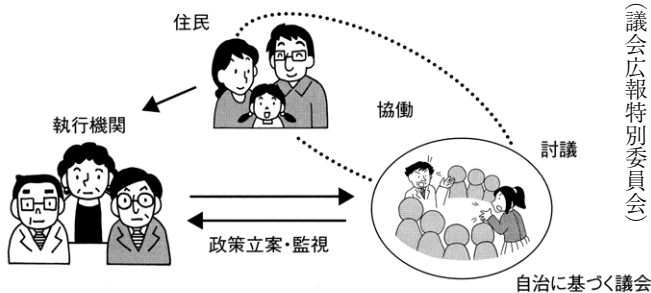
【都道府県議会と市町村議会】

憲法は、都道府県と市町村という自治体の二層制を規定しているわけではありません。市町村は基礎的自治体であり、都道府県は広域自治体（市町村を包括する広域の地方公共団体）で、広域機能、連絡調整機能、補完機能を担っています。

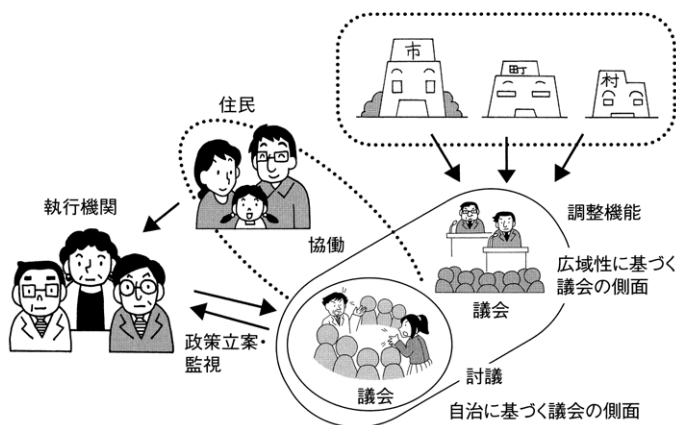
地方分権時代の都道府県は、住民と市町村の調整能力が求められ、執行機関もこの調整能力が重要です。市町村議会は都道府県の基礎としての働きが大事です。

（議会広報特別委員会）

市町村＝基礎自治体の議会



都道府県＝広域自治体の議会





三方五湖に
観光シーズン到来

三方五湖春まつり



イベントを楽しむ観光客

3月30日、三方五湖春まつりがレインボーライン山頂公園で開催されました。式典には、美浜・若狭の両町長や観光関係者が出席しました。

山頂では、神事後「かわらけ投げ」が行われ、水月湖では「黄金の鍵と花束の投湖」が行われました。また、「梅の里保育園児親子の記念乗船」もあり、1年間の賑わいと安全を祈願しました。

レインボーラインでは、夏頃までに山頂公園敷地内に「三方五湖に浮かぶ天空テラス」を整備する計画となっています。(梅津記)



青池学園入学式



「医食同源」の心で新時代を創る

4月8日桜花爛漫の春日和、学校法人青池学園(若狭医療福祉専門学校・青池調理師専門学校)の入学式が行われました。今年の入学生は、調理師科が22名(専門課程12・高等課程10)、昨年から新設された日本語科10名、医療福祉科で31名(理学療法14・介護福祉17)の合計63名で、今年もベトナムから8名の方が介護福祉士を目指し留学されました。

風光明媚な環境の中で、これからの高齢化社会における福祉と若狭の美味しい食材で調理技術を学びますと、新入生が力強く誓いの言葉を述べました。(辻井記)



青池理事長が入学生を歓迎

編集後記

平成の年号も最後を迎え、5月から新しい年号「令和」、新しい天皇の時代を迎える時となりました。また併せて、美浜町も新町長を迎え新時代のスタートの年であります。

町づくりも、新幹線の敦賀延伸、さらに小浜周りルートが決まり、それに備えての駅周辺整備、役場までの道路計画等盛り沢山の事業が始まります。

今後の議会活動に役立たせて頂きますので、皆様方からのご意見やご要望をお待ちしています。(山口記)

美浜町議会広報特別委員会

- 【委員長】 辻井 雅之
- 【副委員長】 寺田 順一
- 【委員】 竹仲 良廣・兵庫 賢一
山口 和治・崎元 良栄
高橋 修

